

歴史（芳水小学校）

大正7年(1918年)12月当時の明電舎社長の「**重宗たけ**」は、前年に44歳の若さで逝去した創業者の夫「**重宗芳水**」の[工場の近くに学校をつくりたい]という遺志を継ぎ、資材を投じて「**芳水尋常小学校**」を建設し大崎町に寄付しました。明電舎の創業者の名前が校名に刻まれた「**芳水小学校**」のはじまりです。児童数570名9学級で開校しました。

平成30年(2018年)12月2日に開校100周年を迎えた芳水小学校は、その年に四代目の新校舎が完成しました。

芳水小学校には幾つかのシンボルがあります。マスコットキャラクターの「クスク」にもなっている「**くすのき**」は、大正10年(1921年)第3回の卒業生の記念樹です。昭和37年(1962年)第44回卒業生の卒業記念品の「**白雪城**」は、卒業生全員の投票でその名前が決められました。「**よい子の像**」は、昭和30年(1930年)に二代目の新校舎の完成に合わせて建てられたものです。

